

- 問1 1970年代末から始まった中国の経済政策において、外国企業の資本や技術を取り入れるために沿海部に「経済特区」や「経済技術開発区」が設けられました。この政策がもたらした国内の状況の変化として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
1. 内陸部の豊かな資源を有効活用するために外国企業が優先的に内陸へ配置され、農村部の所得が都市部を上回った。
 2. 沿海部で工業化が進み経済が急速に発展した一方で、開発が遅れた内陸部との間に大きな経済格差が生じた。
 3. 外国企業の進出を特定の港湾都市のみに限定したため、国内の産業構造は変化せず、伝統的な農業中心の社会が維持された。
 4. 中国全土に均等に開発区を配置したことにより、沿海部と内陸部の経済発展のスピードが統一され、地域間の格差は解消された。
- 問2 中国の人口構成に関する統計において、1950年から2014年にかけて年少人口の割合が約半分以上に減少した一方で、老年人口の割合が約2倍に増加している傾向が見られます。このような状態を表す用語と、それに関連して中国で見直された政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 和歌山県公立入試 類似)
1. 少子高齢化 — 一人っ子政策の見直し
 2. 所得格差 — 経済特区の設置
 3. 過疎化 — 西部大開発の実施
 4. 人口爆発 — 一人っ子政策の導入
- 問3 2015年時点の工業製品の生産統計において、カラーテレビの世界シェアが約47%、スマートフォンが約80%、パソコンが約98%という圧倒的な数値を記録している国について、その背景を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
1. ソビエト連邦の崩壊後、市場経済を導入することで急速に工業化が進み、特に情報通信機器の分野で高い技術力を獲得した。
 2. 太平洋沿岸の好立地を活かして加工貿易を推進し、原材料の輸入から製品の輸出までを一貫して行うことで生産シェアを拡大させた。
 3. 世界最大の人口を背景とした豊富な労働力を活用し、高度な工業化を推進した結果、電子機器の分野で世界的な供給源となった。
 4. 広大な国土を活かした資源採掘と、欧米文化の影響を受けた新しい産業の創出により、パソコンやスマートフォンなどの製造に特化した。
- 問4 地理的な距離の近さや工業製品の生産力の高さを背景として、中国から日本への輸出額は約19兆円に達しています。この状況を説明する背景として、最も適切な内容を選択してください。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 日本の多くの企業が生産拠点を移転し、現地で製造された製品を日本へ逆輸入する仕組みが整っているため。
 2. 広大な国土で生産される鉄鉱石などの鉱産資源が、日本の重化学工業を支える主要な原料となっているため。
 3. 日本との間に自由貿易協定が締結されたことで、全ての農産物に対する関税が完全に撤廃されたため。
 4. 広大な農地を活用した大規模農業により、小麦やトウモロコシなどの穀物を低価格で大量に日本へ供給しているため。
- 問5 中国の経済発展と、それに伴って発生した課題について述べた文章として、最も適切なものを選びなさい。なお、この文章には工業化の進展とエネルギー消費の関係が含まれています。 (2025年 千葉県公立入試 類似)
1. 工業化による土地不足を補うため、内陸部の砂漠を農地に作り変えたことで、大規模な塩害が発生している。
 2. 西部の内陸部を中心に開発が進んだ結果、沿海部との格差が解消され、全国的に人口が減少している。
 3. 外国企業の撤退により工業化が停滞したため、現在は農業を中心とした循環型社会への移行が進んでいる。
 4. 急速な工業化を支えるために石炭燃料が大量に消費され、その結果として深刻な大気汚染が発生している。
- 問6 東南アジアの大陸部と島嶼部の特徴を整理した際、ベトナムやタイなどが位置する「インドシナ半島」の説明として、最も適切な記述を選択してください。 (2021年 福島県公立入試 類似)
1. 大陸部からさらに南へ細長く突き出した半島で、マレーシアやタイの一部が含まれる地域である。
 2. ユーラシア大陸の西端に位置し、地中海に囲まれた温暖な気候が特徴の地域である。
 3. 中国の南側に位置する広大な半島で、メコン川などの大河が流れ、古くから稲作が盛んに行われてきた地域である。
 4. 北アメリカ大陸の北東に位置する世界最大の島で、大部分が氷に覆われている地域である。
- 問7 インドの宗教文化と人々の生活に関する記述として、最も適切な内容を選びなさい。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. ヒンドゥー教徒は牛を神聖な動物として扱うため、ガンジス川の周辺で大規模な牛の放牧を行い、その食肉を輸出の主力としている。
 2. ヒンドゥー教を信仰する人々は、ガンジス川を神聖なものと考え、その流域で儀式的な入浴を行い罪を洗い流すと信じている。
 3. 国民の多くが仏教を信仰しているため、東南アジアを流れるメコン川を聖なる場所として巡礼する習慣がある。
 4. イスラム教が最も広く信仰されているため、ガンジス川のほとりにあるモスクに集まり、毎日集団で沐浴を行う。
- 問8 ロシアやオーストラリアにとって、中華人民共和国が最大の輸出相手国となっている主な理由として、地理的・経済的背景から説明したものとして適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 広域な自由貿易圏を形成したことで、農産物の輸出入に関わる関税が他国に比べて低くなったため
 2. 急速な工業化が進んだことで、製造業に必要な鉄鉱石やエネルギー資源の需要が大幅に増加したため
 3. 情報通信技術の発展により、国内での資源採掘が全面的に禁止され、100%輸入に頼る方針に転換したため
 4. サービス業の発展により周辺諸国からの労働力供給が急務となり、資源と引き換えに労働者を受け入れているため
- 問9 中国では、急速な経済成長に伴ってエネルギー資源の需給バランスが変化しています。2010年には101%であった石炭の自給率が、2014年には94%まで低下した主な要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 深刻な環境汚染を解決するために、石炭の国内生産量を2010年以前よりも大幅に削減した。
 2. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーへの転換が進み、石炭の生産量と消費量がともに激減した。
 3. 国内の石炭資源が枯渇して生産量がゼロに近づいたため、必要な全量を輸入に頼るようになった。
 4. 石炭の国内生産量は増加していたが、経済発展による石炭の消費量の伸びが生産量を上回るようになった。
- 問10 1980年代のタイでは衣類などの軽工業品が、マレーシアでは原油などの一次産品が主要な輸出品でしたが、2019年の統計では両国ともに共通の品目が輸出額の第1位となっています。急速な工業化によって輸出構造が高度化したことを示す、現在の両国における最大の輸出品目として正しいものを次の中から選んでください。 (2022年 大阪府公立入試 類似)
1. 小麦
 2. 機械類
 3. 綿花
 4. 羊毛
- 問11 インドの宗教構成について、人口統計の傾向を正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 仏教の発祥地であるため、現在でも人口の約80パーセントが仏教徒である
 2. 人口の約80パーセントをヒンドゥー教徒が占め、イスラム教徒が約14パーセントでそれに次いでいる
 3. 世界全体での割合が約7パーセントである仏教が、インド国内においても過半数を占めている
 4. イスラム教徒が最も多く、次いで仏教徒が人口の約14パーセントを占めている

答え合わせ・解説

問1	答え 2 沿海部で工業化が進み経済が急速に発展した一方で、開発が遅れた内陸部との間に大きな経済格差が生じた。	中国では「改革開放」政策のもと、地理的に輸出入に有利な東部の沿海部に経済特区などを設置し、税制上の優遇措置などを与えることで外国企業を誘致しました。これにより沿海部は「世界の工場」と呼ばれるほど急成長しましたが、一方で投資やインフラ整備が遅れた内陸部との間で、所得や生活水準の大きな「経済格差」が生まれることとなりました。
問2	答え 1 少子高齢化 ― 一人っ子政策の見直し	年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加する現象は「少子高齢化」と呼ばれます。中国ではかつて爆発的な人口増加を抑えるために「一人っ子政策」を導入していましたが、少子高齢化の急速な進展によって労働力不足などの弊害が予測されるようになったため、この政策は見直されることとなりました。
問3	答え 3 世界最大の人口を背景とした豊富な労働力を活用し、高度な工業化を推進した結果、電子機器の分野で世界的な供給源となった。	中国は世界最大の人口を抱えており、その豊富な労働力と政府の経済政策によって急速な工業化を成し遂げました。提示された統計値にあるように、2015年時点ではスマートフォンやパソコンなどの多くの工業製品において、世界の生産の大部分を中国が担うようになっています。
問4	答え 1 日本の多くの企業が生産拠点を移転し、現地で製造された製品を日本へ逆輸入する仕組みが整っているため。	中国と日本の輸出入額が極めて大きい背景には、1990年代以降、日本の製造業が安い労働力や広大な市場を求めて中国に工場を相次いで進出させたことがあります。そこで生産された電気機器や衣類などの製品が日本に送られる「逆輸入」の形をとる取引が多く、これが膨大な輸出額につながっています。鉱産資源や穀物の輸出が中心であるアルゼンチンなどの国々とは、貿易の構造が大きく異なります。
問5	答え 4 急速な工業化を支えるために石炭燃料が大量に消費され、その結果として深刻な大気汚染が発生している。	中国の経済発展は、安価なエネルギー源である石炭に強く依存してきました。工場や火力発電所での石炭の大量消費は、有害物質による深刻な大気汚染を引き起こし、酸性雨やPM2.5（微小粒子状物質）などの問題を生じさせています。これは経済成長の影の側面として、現在の中国における重要な社会課題となっています。
問6	答え 3 中国の南側に位置する広大な半島で、メコン川などの大河が流れ、古くから稲作が盛んに行われてきた地域である。	インドシナ半島は東南アジアの大陸部に位置し、メコン川やチャオプラヤ川といった大河の周辺に広がる平野部を利用して稲作が発展してきました。マレーシアの一部が含まれるのは、インドシナ半島からさらに南に伸びるマレー半島であるため混同に注意が必要です。
問7	答え 2 ヒンドゥー教を信仰する人々は、ガンジス川を神聖なものと考え、その流域で儀式的な入浴を行い罪を洗い流すと信じている。	ヒンドゥー教は多神教であり、特定の河川や動物を神聖視する特徴があります。特にガンジス川での沐浴は、現世の罪を浄化する重要な宗教行為とされています。また、牛を神聖な動物として崇めるため、ヒンドゥー教徒は一般的に牛肉を食べません。選択肢にあるメコン川は主に東南アジアを流れる河川であり、インドの主要な宗教文化とは直接の関わりがありません。
問8	答え 2 急速な工業化が進んだことで、製造業に必要な鉄鉱石やエネルギー資源の需要が大幅に増加したため	中華人民共和国は1970年代末からの改革・開放政策以降、急速な経済発展を遂げました。この発展を支えるためには、国内の資源だけでは不足するため、ロシアから天然ガスや石油を、オーストラリアから鉄鉱石や石炭を大量に購入する必要が生まれました。その結果、これらの資源国にとって最大の輸出相手国という地位を確立しました。
問9	答え 4 石炭の国内生産量は増加していたが、経済発展による石炭の消費量の伸びが生産量を上回るようになった。	中国は世界最大の石炭産出国であり、生産量自体は年々増加傾向にありました。しかし、それ以上に工業化や都市化によるエネルギー需要が爆発的に増加したため、国内の消費量が生産量を上回る事態となりました。2012年ごろを境にこの傾向が顕著になり、自力で賄える割合（自給率）が100%を割り込んで低下しています。生産量が減ったのではなく、消費量の増加スピードが生産を追い越したという因果関係を理解することが重要です。
問10	答え 2 機械類	タイやマレーシアなどの東南アジア諸国では、1980年代には衣類などの労働集約的な軽工業や、原油・天然ゴムといった一次製品の輸出が中心でした。しかし、その後の急速な工業化にともなって外国企業の工場誘致などが進み、現在では自動車や電子機器を含む「機械類」が輸出の主軸となっています。このように、経済発展とともに輸出の品目が付加価値の高いものへと変化することを、輸出構造の高度化と呼びます。
問11	答え 2 人口の約80パーセントをヒンドゥー教徒が占め、イスラム教徒が約14パーセントでそれに次いでいる	インドの人口構成における宗教別割合は、ヒンドゥー教が約80パーセントと圧倒的に多く、次いでイスラム教が約14パーセントとなっています。仏教はインドを起源とする宗教ですが、現在のインド国内における割合は非常に低く、世界全体の仏教徒の割合（約7パーセント）と比較しても、インド国内で多数派というわけではありません。